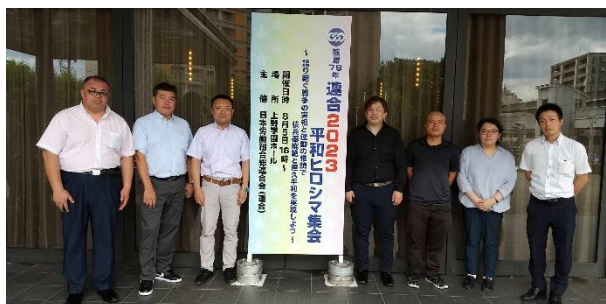


「連合2023平和行動in広島」派遣団報告

語り継ぐ戦争の実相と運動の継続で 核兵器廃絶と恒久平和を実現しよう

～被爆78年 連合平和ヒロシマ集会に、全国から1,735名が結集～



平和集会会場の様子

1945年8月6日午前8時15分、暑い広島の街に人類史上初めての原子爆弾が投下され、凄まじい熱線と爆風、一瞬にして焼け野原となった広島、何の罪もない14万人余りの尊い命が奪われたあの日から78年目を迎えた。「もう二度と被爆者をつくりたくない」「地球上から核兵器をなくしたい」その強い願いを込め、4年振りの通常開催となる「連合2023平和ヒロシマ集会」が8月5日（土）上野学園ホールにおいて、全国から1,735名の仲間が結集して開催された。

連合福島からは、東白川地区連合の鈴木 隆議長を団長に7名が参加した。集会に先立ち、鈴木団長が連合福島を代表して平和の折鶴を献納した。

集会では連合芳野友子会長が主催者を代表して挨拶、続いて国際労働組合総連合（ITCU）から、郷野晶子会長が核兵器廃絶と平和で公正な社会の実現を求めるメッセージを発信した。

また中国新聞社編集委員の水川恭輔氏による「G7サミットとヒロシマ」と題し講演があり、広島県原爆被害者団体協議会・被爆を語り継ぐ会の箕牧智之さんより当時の被爆体験が語られた。

全国から選ばれた高校生平和大使「ビリョクだけどもリョクじゃない！」の若者らが核兵器廃絶と世界の恒久平和を願うメッセージを伝え、最後に全員参加で「平和アピール」を採択し「ヒロシマ集会」は閉会となった。



平和の折鶴を献納する鈴木団長



原爆ドーム前での献花・献水 黙とうの様子

集会終了後、原爆ドーム前広場に場所を移し献花・献水を行い、原爆の被害で亡くなられた方々を偲び、慰霊を慰めた。

翌8月6日、平和記念公園は厳戒な警備態勢であり、会場外ではあったが午前8時15分静寂の中、会場に向け連合福島派遣団7名も黙祷を捧げた。平和ヒロシマ集会と平和視察研修を通じ、世界で唯一の被爆国である日本から核兵器廃絶と世界の恒久

平和実現に向けて尽力することを宣言し、平和運動がさらに広がり、戦争のない平和な世界が実現することを広島

の空へ改めて願った。
広島の暑い熱い3日間でしたが、鈴木団長のもと団結してその役割を果たす事が出来た。参加者の皆様に改めて感謝申し上げます報告とする。

（記：事務局 諸橋）